

児童朝会 校長の話 3月15日

学校に「よろこびの種」という画集が届きました。美しい桜の日本画ですね。描いた方は南正文さんです。(写真) 実は南さんは両腕がありません。小学校3年生の時に、お父さんが経営する木工所で、機械のベルトに巻き込まれて両腕を失ってしまいました。

中学2年生の時に、順教尼という同じように両腕がない尼さんに出会いました。順教尼は口で筆を持って字や絵を描いている方でした。順教尼は17歳の時に両腕を失いました。カナリアの親鳥が口で餌を子供に与え、腕がないのに幸せに生きてい



るのを見て、自分も腕をなくしても幸せに生きられるはずだと思ったそうです。そして、南さんは順教尼に絵を習い始めました。



画集と一緒にビデオが付いてきたのですが見てみると、南さんは、下書きは足の指で筆を持って行っていました。絵の具のチューブの蓋を開けて絵の具を出したり、絵の具を混ぜたりするのは足の指で行っていました。そして、南さんの絵には金粉がよくつかわれているのですが、片方の足の指で刷毛を持ち、もう片方の足の指でスクリーンを持って金粉を吹き付けていました。2012年12月9日、

62歳で亡くなるまでに900点もの絵を描き、日本や世界の各地で展覧会を開いてきました。こんな写真もあり



ました。南さんは自転車にも乗れるんですよ。

南さんの絵を何枚か紹介しますね。

「生きる」 2006 年

「富士」 2004 年

「共に」 2004 年



3 学期も残すところ 10 日です。あと 10 日もすると「生きる」の絵のように浅草小学校の桜が満開になることでしょうね。